

# 若狭街道(旧丹後街道)プロジェクト

(福井県嶺南振興局)

## 1. 趣 旨

北陸新幹線敦賀開業を見据え、当面は国体開催時の嶺南地域の魅力の向上を図るため、小浜線の利活用を図る方策の一つとして、かつての歴史街道であり、面影を残している旧「丹後街道」の宝を掘り起こし、街歩き、街道巡り旅等のコースとして発信することにより、嶺南地域への人の流れを太くする。

## 2. 趣旨説明

- ・北陸新幹線敦賀開業を見据え、長期的視点で、市町が行う旧「丹後街道」の街並みと賑わいを復活させるまちづくり等とも連携し、嶺南地域を東西に貫く、敦賀から若狭地域への人の流れを太くする「賑わい軸」を創り出すことを目指す。
- ・今回は、旧「丹後街道」とJR小浜線が並行して走っている区間が相当あり、小浜線の各駅が約4キロ程度で設置されていることから、小浜線の利用と組み合わせた新たな誘客の獲得を図るため、「歴旅」を実施する。
- ・旧「丹後街道」とは、嶺南地域の人々が丹後地方に行く道として呼んでいたものであり、逆に、丹後地方の人々は「若狭街道」と呼んでいた。若狭に愛着を感じていただいている嶺北地域、関西をはじめ広く県外からの誘客増を図るため、歴旅『若狭街道(旧丹後街道)小浜線で歩く物語』として発信していく。
- ・地域住民の皆様にも参加していただき、『若狭街道(旧丹後街道)小浜線で歩く物語』を盛り上げていただくなど、地域の活性化の一役を担っていただきたい。

## 3. 歴旅『若狭街道(旧丹後街道)小浜線で歩く物語』

旧「丹後街道」の起点となる敦賀西小学校の校門前から高浜町のJR青郷駅の近辺までの区間で、旧「丹後街道」が残されている道路沿いの魅力を掘り起こし、JR小浜線の利用と組み合わせ、この道路を歩いたり、自転車で巡るコースと魅力を紹介している。

嶺南地域の人に加え、古道や歴史街道を好む嶺北地域の人々をはじめ、県外の人に来ていただくことを期待して、今回、敦賀市から高浜町まで10コースを作成した。

(寺社仏閣66箇所、飲食店等31箇所)

※「歴旅」とは、福井が誇る豊かな文化遺産を活かした歴史を巡る旅

※本コースは、福井県教育委員会編纂の「歴史の道調査報告書」第2集、第3集(平成14年、15年刊行)に基づき、歴史専門家の調査結果を踏まえて設定した。

## 4. 旧丹後街道の概要

### (1) 場 所

- ・旧丹後街道は、若狭国を横断して越前国の敦賀から丹後国宮津（京都府宮津市）へと通じていた街道のこと。
- ・旧丹後街道の現地調査をしたところ、道路の拡幅工事等で改良されたり、都市計画により消滅した区間もあるが、昔の街並景観のたたずまいの地域も相当残されている。この区間を歴旅『若狭街道（旧丹後街道）小浜線で歩く物語』のコースとして活用する。  
(旧丹後街道に該当する現在の道路については、敦賀から舞鶴までは国道27号線、舞鶴から終点の宮津までは国道178号線となっている。)

### (2) 丹後街道に関わる歴史

- ・戦国時代は、街道が通る椿峠（美浜町）と吉坂峠（高浜町）近辺で、しばしば合戦が行われていたことで有名であり、当時若狭国を治めていた若狭武田氏が国を守る東西の要衝として重要視していたことがわかる。因みに椿峠近くには、佐柿国吉城（美浜町）があり、粟屋氏が朝倉氏の大軍から守り通した戦いがよく知られている。元亀元年（1570）には、織田信長が朝倉氏攻撃の基地として借用しており、このことから椿峠一帯が若狭を支える要衝であったことがよくわかる。一方、吉坂峠では、永禄9年（1566）に逸見駿河守が丹後の兵を迎え撃っており、他にも度々若狭と丹後の諸勢力が戦っている。
- ・近世に入ってもこの2つの峠は重要であったようで、小浜藩は、佐柿に陣屋（お茶屋）、吉坂峠の麓の蒜畠（高浜町）に口留番所（関所）を置き、領地支配の要となっていた。

[出典：福井県余暇ガイドブック文学歴史編]

## 5. 今後の対応

今後、嶺南振興局、6市町、若狭湾観光連盟、各市町観光協会等が連携し、役割分担をしながら、歴旅『若狭街道（旧丹後街道）小浜線で歩く物語』の充実を図るとともに、旧「丹後街道」を活用したまちづくりなどを行っていく。当面、次のような事業を行っていく予定である。

### ●平成28年度

- ・歴旅『若狭街道（旧丹後街道）小浜線で歩く物語』をHPで発信  
【嶺南振興局、若観連】
- ・歴旅『若狭街道（旧丹後街道）小浜線で歩く物語』紹介地図（原型図）を県立図書館に展示  
2月21日(火)～28日(火)  
【嶺南振興局、若観連】